



市内各地で

夏まつり

8月は市内各地で夏祭りが行われました。祭りは子どもたちにとっては一大イベント。その気持ちを誰よりも知る大人たち。会場は、地元の子どもたちはもちろん、お盆で帰省した孫を連れて来場するご家族など、多くの人で賑わいました。

射的や金魚すくい、流しそいうめんなどを楽しんだほか、会場で練り広げられた盆踊りや太鼓の演奏、打ち上げ花火が、年に一度の夏祭りをさらに盛り上げました。

子どもたちにとっても、大人たちにとっても、忘れられないひと夏の思い出になりました。

ホンダ・ヤマハ

除雪機

【早期】
【9月30日まで】
予約受付中!!

・10%off(一部機種を除く)
・ガソリン携行缶
&防寒着プレゼント

バイク・自動車・除雪機・発電機・車検 東京海上日動火災・JA 共済

(有)多田車販

〒964-0314 福島県二本松市西勝田字鞍掛 37
TEL.(0243)55-3211 FAX.(0243)55-2347



ホンダ
クロスオーガ
HSS760n (JX)
メーカー希望小売価格
税込¥432,000



2016長野県駒ヶ根市サマーキャンプ 駒ヶ根市民の優しさと大自然を 肌で感じてきました

7月23日から25日まで、JICAの訓練所があることが縁で友好都市となっている長野県駒ヶ根市へ、市内の小学生18人がサマーキャンプへ参加しました。

滞在期間中は、駒ヶ根市の夏祭りに参加したり、現地の赤穂小学校児童らとプールや打楽器演奏などで交流を深めたりなど、楽しい夏の思い出をたくさんつくって帰ってきました。

来年は、駒ヶ根市の子どもたちを二本松市へ招待する予定です。



▲駒ヶ根夏祭りでは駅前大通りをダンスパレードした児童たち



二本松南小
学校児童による「舞踊」

二本松少年隊顕彰祭・墓前祭 愛する郷土を守るため二本松のために

幕末の戊辰戦争で郷土を守るため、勇敢に戦い、若い命を散らした「二本松少年隊」をしのび、7月28日に県立霞ヶ城公園で顕彰祭が行われました。

顕彰祭の前には、ふくしまデスティネーションキャンペーンをきっかけに結成された「二本松少年隊」のパフォーマンスが披露され、“ほんとの空”を守り二本松の素晴らしさを全国に伝える少年隊の力強さを感じさせる演技となりました。二本松藩主丹羽家第18代当主の丹羽長聰氏のあいさつの後、二本松剣友会による「日本剣道形」、二本松南小学校の「舞踊」、岳下小学校の「居合」、二本松北小学校の「剣舞」が披露され、福島岳風会二本松吟詠会のメンバーも「戒石銘」などを吟じました。

少年隊の命日にあたる翌29日には、大隣寺にて墓前祭が行われ、少年隊の冥福を祈るとともに、作文コンクールの最優秀賞受賞者による発表も行われました。



▲小学校の部最優秀賞
佐々木篤馬くん(二本松北小)



▲中学校の部最優秀賞
佐藤直さん(二本松一中)

第40回福島県消防操法大会に向け早朝訓練 地域防災の要として早朝より訓練に励む消防団

7月30日の早朝5時30分。「集まれ！」の指揮者の合図で消防団員が一斉に集合し、消防ポンプ車操法の訓練が始まりました。今年で40回目を迎える福島県消防操法大会。二本松市からは2年に1度、各地区隊持ち回りで出場選手を輩出しており、今年は二本松地区隊第1分団から5人の精鋭が選ばれました。

取材に訪れたこの日は、ホース収納などを行う団員などおよそ40人が集まり、約1時間30分の訓練に汗を流していました。

選手たちは5月から週2回程度、毎朝5時30分から訓練を始め、8月からは週3回の早朝訓練を積み重ねてきました。本番は9月4日に福島県消防学校で行われます。これまでの訓練の成果を十分に発揮されることを期待します。



▲左から指揮者の菅澤剛さん(郭内)、1番員の川島広泰さん(松岡)、2番員の平館強さん(根崎)、3番員の日野健太さん(亀谷)、4番員の宝槻英男さん(若宮)



青森から東京までランニングと自転車をつなぐ 未来(あした)への道 1,000km縦断リレー

青森県から東京都まで東日本大震災の被災地をランニングと自転車をつなぐ「未来(あした)への道1,000km縦断リレー」は、8月2日二本松市内を通過しました。

中継所となった安達公民館と二本松市役所の正面玄関前には、全国から参加しているランナーたちに声援を送ろうと、多くの市民の皆さんが駆け付けました。

マチュピチュ村創設者・野内与吉と古代アンデス文明展 契約移民から初代村長までの軌跡と 古代アンデス文明の魅力を紹介

8月7日から28日まで市民交流センターで開催された「マチュピチュ村創設者・野内与吉と古代アンデス文明展」の関係者内覧会が8月6日に行われ、現職のマチュピチュ村長であるガヨソ村長らがテープカットを行い開催を祝いました。

会場には、大玉村出身で初代マチュピチュ村長を務めた故・野内与吉さんの遺品や資料の他、ペルーの古代遺跡から発掘された三千年前の土器や織物、アメリカ大陸最古とされる金の冠のレプリカなどが展示され、来場者を魅了しました。



▲中央の民族衣装を着ているのがガヨソ村長とその奥様



▲ハノーバー町役場にてホストファミリーの皆さんと記念撮影

友好都市アメリカハノーバー町へ22回目の訪問 市民の翼で中学生が国際交流

教育部長を団長とした市内の中学生10人が、7月29日から8月5日の8日間アメリカ合衆国を訪問しました。二本松市出身の世界的歴史学者・朝河貫一博士が学んだダートマス大学やイエール大学を訪ね、国際平和のために尽力した博士の偉大な業績を学ぶことができました。

ホームステイでは、現地の方々から心温まる歓迎を受け、中学生にとってアメリカの文化を肌で感じる貴重な体験となりました。

げんきキッズパークにほんまつ 来館者30万人達成記念セレモニー

8月10日、安達ヶ原ふるさと村内にある屋内遊び場「げんきキッズパークにほんまつ」の来館者数が30万人に達しました。

記念すべき30万人目となったのは、郭内にお住いの篠崎さん親子。二本松市へ引っ越してきて以来、げんきキッズパークによく遊びに来ているとのこと。記念品として自由に組み立てられる玩具が贈られました。また、同時時間帯に来場していた子どもたちにも、記念のお菓子が配られ、館内はお祝いムードに包まれました。



▲(左)後藤副市長と一緒に記念のくす玉を割る篠崎さん親子。(右)来館した子どもたちにも達成記念祝いのおすそわけ。